企画の趣旨

ショパンの生誕200年で沸くこの2010年は、彼とも深い交流のあった女性ポリーヌ・ガルシア=ヴィアルドの没後100年でもあります。スペインの声楽家ガルシア一族に生まれたポリーヌは、歌手・作曲家としてのみならず「芸術のすべてを知る生き字引」とも評されるほど、19世紀ヨーロッパにおける圧倒的な存在でした。ロッシーニ、シューマン夫妻、ベルリオーズ、グノー、サン=サーンス、フォーレ、ブラームス、チャイコフスキーといった音楽家に加え、肉親同然の付き合いだったジョルジュ・サンド、そして生涯彼女の傍らを離れなかったロシアの文豪ツルゲーネフなど、彼女を賛美した著名人は数え切れません。

今回はリスト直伝のピアニストとしても称えられたポリーヌのヴァイオリンとピアノのための作品をまとめて聴いていただきます。さらに名門音楽家系の一員として作曲にも見事な実績を残したポリーヌの長女ルイーズと末子ポールの室内楽も含めて構成しました。出自を色濃く反映したスペイン風味の小品が多いのは、ドイツ系の長大な器楽曲に偏りがちな日本のクラシック界に、新しい風を吹き込みたいと考えたからでもあります。ポリーヌの祥月命日に合せたこのコンサート、ヴィアルド家のサロンを想像しながら、どうぞ心ゆくまでお楽しみ下さい。

小林 緑

〔プログラム〕

16:00〜17:00
（津田ホール1階会議室にて）

講演「ポリーヌ・ガルシア=ヴィアルドとその周辺」
小林 緑（国立音楽大学名誉教授）

18:00〜
（津田ホール）

コンサート

ルイーズ・ヴィアルド=エリット *Louise Viardot-Héritte (1841-1918)*
ピアノ四重奏曲 イ長調 op.9《夏に》（1883年）
大谷康子、百武由紀、苅田雅治、山田武彦

ポリーヌ・ガルシア=ヴィアルド *Pauline Garcia-Viardot (1821-1910)*
ヴァイオリンとピアノのためのソナチネ（1874年）
ピアノのための2つの小品（1885年）
小林美恵、山田武彦

〔休憩〕

ポール・ヴィアルド *Paul Viardot (1857-1941)*
ヴァイオリンとピアノのための3つの小品（作曲年不詳）
ヴァイオリンとピアノのためのシシリエンヌ（作曲年不詳）
大谷康子、山田武彦

ポリーヌ・ガルシア=ヴィアルド
ヴァイオリンとピアノのための6つの小品（1867年）
小林美恵、山田武彦

ルイーズ・ヴィアルド=エリット
ピアノ四重奏曲 ニ長調 op.11《スペイン風》（1883年）
大谷康子、百武由紀、苅田雅治、山田武彦

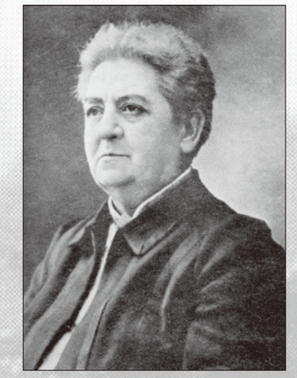
※曲目・曲順は変更になる可能性があります。予めご了解下さい。

［表紙］ポリーヌ・ガルシア=ヴィアルド：アリ・シェフェールによる19歳頃の肖像画

ポリーヌ・ガルシア=ヴィアルド関連略年譜

1821	7月18日、パリ、リシュリュー通りで生まれる
1825~29	ガルシア一家、ニューヨーク、メキシコにイタリア・オペラ巡演
1830	父マヌエルが舞台から引退して教育に専心、ポリーヌがその伴奏を受け持つ
1832	父がパリにて57歳で急逝
1836	オペラの花形歌手で姉のマリア・マリブラン、28歳で死去
1839	ロンドンおよびパリでロッシーニ「オテロ」によりオペラ・デビュー ジョルジュ・サンドおよびショパンと出会う
1840	イタリア座支配人ルイ・ヴィアルドと結婚、イタリアへ新婚旅行
1841	12月14日長女ルイーズ誕生。しかしサンドや祖母に託され孤独な少女時代を送る
1843	ロシアに初のツアー。ツルゲーネフと出会う
1848	ロンドンでショパンと共演 各地でドニゼッティ「夢遊病の女」などオペラ出演多数
1849	マイヤベーア「預言者」パリ初演 ショパンの葬儀でモーツァルト「レクイエム」を歌う
1851	グノー「サッフォー」パリ初演
1852	次女クローディ誕生（のちに画家となる）
1854	三女マリアンヌ誕生（のちに歌手となり、77年にフォーレと婚約するも破棄）
1857	7月20日末子ポール誕生
1859	グルック「オルフェオ」（ベルリオーズとフランス語版を協働）初演 （以後およそ150回上演）
1862	サル・エラール（パリ）にてクララ・シューマンと共演
1863	「オルフェオ」で舞台より引退。ルイーズが結婚。バーデン・バーデンに転居
1867	ツルゲーネフの台本によるオペレッタ「最後の魔法使い」初演（以後各地で再演）
1870	普仏戦争。バーデン・バーデンからロンドンへ。ブラームス「アルト・ラプソディ」初演
1872	パリ帰郷。パリ音楽院声楽教授に就任（〜75年辞任）
1874	サン=サーンス「サムソンとダリラ」を私演
1881	ツルゲーネフ、自伝的な短編小説「恋の凱歌」出版
1883	5月5日夫ルイ死去（1800〜）。9月3日ツルゲーネフ死去（1818〜）
1885	サンジェルマン・デプレ通りに転居。サン=サーンス「動物の謝肉祭」を私演
1901	レジオン・ドヌール受勲
1904	オペレッタ「シンデレラ」作曲・上演（生誕150年を機に1972年イギリスで再演）
1910	5月18日自宅で死去
1918	1月17日ルイーズ、ハイデルベルクで死去
1941	12月11日ポール、第二次世界大戦で逃れたアルジェリアで死去

ポリーヌにピアノのレッスンをするショパン
ジョルジュ・サンドの息子モーリスによるカリカチュア。ポリーヌ自身が描いたとする説もある。


娘（長女）ルイーズの晩年の写真

息子（末子=第4子）ポールの少年時代の写真

〔参考文献〕

- *Patrick Barbier : Pauline Viardot Biographie (2009, Grasset)*
- *Barbara Kendall-Davies : Pauline Viardot=Garcia. Volume I, The Years of Fame 1836-1863 (2003,Cambridge Scholors Press)*
- *Patrick Waddington : The Musical Works of Pauline Viardot-Garcia A Chronological Catalogue with an index of Titles & a List of Writers set and Composers arranged. (2004, Pinehaven,New Zealand)*
- 小林 緑「ポリーヌ・ヴィアルド―19世紀オペラ界のスーパースター」『女性作曲家列伝』（1999,平凡社）所収

〔主要ディスコグラフィ〕

- *Iwan Turgenjew : Das Lied der triumphierenden Liebe*
  Ulf Schneider (vn), Stephan Imorde (pf), Martina Gedeck（朗読）
  〔独Ars Musici AM 1400-2〕
  （ポリーヌのヴァイオリン曲を全て含むCD。ポールの「ロマンス」も収録）
- *Louise Héritte-Viardot : Die drei Klavierquartette (op.9, op.11, d-moll)*
  Ensemble Viardot
  〔独Ars Produktion ARS 38 468〕
  （「ニ短調遺作」も含め、ヴィアルド=エリットの全ピアノ四重奏曲を収めた一枚）
- *Pauline Viardot-Garcia: Lieder, Chansons, Canzoni, Mazurkas*
  Isabel Bayrakdarian (sop), Serouj Kradjian (pf)
  〔カナダ ANALEKTA AN2 9903〕
  （優れた歌唱とともにポリーヌの代表的な歌曲をバランス良く収めた一枚）
- *The Great Violinists, Recordings from 1900-1913*
  Paul Viardot (vn) ほか
  〔英Testament SBT2 1323〕
  （ポールが1902年9月にGramophone & Typewriter社で行った16面分の録音のうち「ヴィエニャフスキ：オベルタス」が収められている）